

# とよなか 環境



ニュースレター

発行：とよなか市民環境会議アジェンダ21  
編集責任者：奥野 享  
事務局：豊中市環境部環境政策課内  
〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1  
Tel:06-6858-2127 Fax:06-6842-2802

この号のハイライト

P.1 豊中アジェンダ21 推進会  
総会/P.2~3 屋久島会議、花  
と緑、交通部会/P.4 自然部会  
/P.5 企画屋、生活部会/P.6  
記念講演/P.7 とよなか市民環  
境会議/P.8 環境プラザ

2003年(平成15年)9月号 NO.4 (通巻第22号)

## 6/27 豊中アジェンダ21 推進会総会

今年度の豊中アジェンダ21 推進会総会は6月27日13時30分から豊中市立市民会館で開催。当日の出席者は委任状の27人を含め102人と団体会員13人、会員145人のうち過半数の出席で有効に成立を確認。その他市民環境会議会員なども含め150人の参加で盛会のうちに議事が進められました。

### 総会は特別議案で NPO法人化へ

総会開会の冒頭、まず来賓として一色貞輝市長が「アジェンダ21 推進会がさらに一歩前進しNPO法人を目指すことも提案されると聞いている。循環型社会の形成に向け、今日の総会が一層の飛躍になることを願っている」とあいさつ。続いて市議会議長平田一義さんから「環境重視型の社会へ加速度的に進みつつある時代に、地球環境の保全と、環境にやさしいまちづくりのためますますの発展を祈っています」と激励を受けました。

議事は自然部会の久保美秀さんの議長で進められました。前年度の活動報告、決算と監査報告を承認。続いて特別議案として「豊中アジェンダ21 推進会のNPO法人化にかかわる議論経過と最終的な考え方(案)」が提案されました。

提案の中では次のようにNPO法人化の必要性が強調されました。「ローカルアジェンダ21(21世紀の検討の課題と直訳)」は、豊中における課題を提示しており、その主体は市民が担うものである。ローカルアジェンダ21 見直し作業や今後の組織と行動を発展させていくためには、市民組織の真の自律と同時に、現段階で考えられる行政からの支援の仕組みを制度化し「豊中アジェンダ21」を推進していくことである。

このような条件を満たす体制としてNPO法人化に移行することは必要不可欠である。

以上の提案を満場一致で決定し、新しい組織設立のアピールを確認。総会はそのまま引き続いて、特定非営利活動法人の設立総会へと切り替えられました。



### 新組織の体制を確立する

新しい組織の総会は、予定されている定款に従い河野猪太夫さんの議長で進められました。これまで特定非営利活動法人(NPO法人の正式名称)の設立に向け準備を進めてきた中村義世さんが提案に立ち、①設立趣旨書と定款および関連事項を説明、また②活動計画と会計予算については、今年度と翌年度とが認可手続きのために必要とされているのでそれらについても説明し、かなり膨大な内容の議案でしたが提案どおり決定しました。

続いて、新組織の役員として理事15人と、監事2人について宮田健さんが提案し異議なく決定、以上で設立総会を終わりました。

NPO法人登録のために記録署名人を決定したというのも、新しい組織発足を実感する手続きでした。

その後、とよなか市民環境会議の総会と、枚本育生さんの記念講演「持続可能なゆたかなまちづくり」と題する話を聴き長時間の行事を終えました。(別項あり)

## 自然を尊重する考え方

屋久島にはわずか3日ほどの滞在でしたが、自然について見識を広めるとも良い機会となりました。

「まぜくい会議」という地元の方をパネラーにしたシンポジウムでは、多くの観光客の流入による自然の劣化が指摘され、人間のつつましきとして、せめて全く人が森に入らない日を作るべきではないかと提案が



なされたり、人が森を守るのではなく、森が人を生かしているのだという意見が出されました。地元の方の自然を尊重した考え方は、とても衝撃的で新鮮な内容でした。

また、滞在中は台風の接近に伴い、危うく予定どおり帰れなくなるところでした。飛行機や船が欠航した場合、どのように影響があるかを宿の方が教えて下さ

## 屋久島での環境

いました。屋久島の方は、豊中に住んでいる私たちよりもはるかに近くで自然の力を感じ、自然と共に生活しておられることを知りました。ですが、島内でも少しずつ自然と離れた生活が行なわれてきているという残念な話を聞き、今こそ、私たちは自然を身近で感じ、自然に対して謙虚な姿勢で生活していかなければいけないのではないかと感じた屋久島会議でした。

(自然部会・廣田学)

## 紙ごみ削減に苦勞する

1年に366日雨が降るといわれる屋久島で環境自治体会議が開催されましたが、3日間お日様を見ることは勿論出来ず、帰りには35年ぶりという5月の台風で翻弄され飛行機の出発があやぶまれ、はらはらしましたが無事予定どおりに帰ることができました。

昭和40年代にチェーンソーができ、大量の杉が伐採され、これでは屋久島がだめになると立ち上がった方たちのお陰で、世界遺産に登録されるだけの森が残されたようです。

それ以降、島をあげて環境に取り組んでいる様子を話されました。行政とボランティアが市民を巻き込んで一体になってやらなければ、前にすすまない様子⇒

## 花と緑のネットワークとよなか

### 「楽しい野菜づくり(秋・冬野菜編)」のパンフができあがる

花と緑のネットワークとよなからは家庭から出る生ごみを堆肥にする活動をしています。この活動で家庭の中に生ごみ→堆肥→野菜→生ごみの循環の小さい輪が根づいています。従来の会場であるくらしかん・リサイクルプラザの他に、とさ千里(新千里北町)、花とみどりの相談所(豊島公園内)でも9月10日に出前の堆肥化講習会を行いました。

講習会では、参加される市民同士の会話ははずんでいます。参加の皆さんは、自分の出した生ごみは燃やしたくない思いです。それだけ、クリーンランドの負荷が減り、炭酸ガスの発生を減らすこととなります。

Q&Aでは、終了後も次々に質問される人が何人もあります。しかし、最近では堆肥の外に花や野菜

の植え方、育て方、病気や虫の対策などについての質問があります。堆肥化講習会のメンバーだけでは、とても対応は無理なので困っていました。

メンバーの柳沢さんが、とよっぴー(緑と食品のリサイクルプラザで生産される土壌改良材)の指定農園として3年半にわたって、いろいろな野菜をつくってきました。出来た野菜は、販売用に提供したり、いちご狩りをしたりして、市民にもメンバーにも喜ばれてきました。

その使用実績の上で、柳沢さんが、大根・白菜・かぶ・人参・キャベツ・ほうれん草・ねぎ・えんどう豆・たまねぎ・ブロッコリー・カリフラワー・こまつ菜・レタスの栽培についてのノウハウを1冊の本にまとめてくれました。

これは秋・冬野菜編ですから、8月に土作りをして、9月からの冬野菜の栽培に間に合うでしょう。続いて春・夏野菜編が出来上がる予定です。頒\*

# 自治体会議から

「もうかがい、私たちの課題とするところだと感じました。島にはごみになるものは何もないはずだ、昔は全部土に還っていたのだから。でも島ではごみの半分以上が紙類だそうです、人口1万5千人位の小さな島にはリサイクルの施設はありません。船で運び出すには、費用がかかりすぎます。紙も堆肥にすきこむようにはしているけれど、それはほんの1部でしかありませんとの報告でした。

わがまち豊中も役所と市民の間を私たちアジェンダが橋渡しをしてごみの減量をすすめ、生ごみの堆肥化を促進するお手伝いができればいいと思っています。

(花と緑のネットワークとよなか・豊田佐都子)

## 生活と環境を両立させて

「屋久島の原生林は1993年に世界遺産に登録され、今年で10年になります。ややもすると自然が壊される時代に、この世界遺産が守られてきたのは、開発と自然との共生を目指した地域政策の賜物です。

屋久島に生きる人々の生活様式や多様化に向けた対策と、自然環境の保全・再生とを矛盾と捉えるの



でなく、持続的・地域社会の発展に向けて取り組んできたからです」——基調講演のなかで屋久杉自然館館長日下田紀三さんが話されていたことばに、この町の姿勢がうかがえました。

かつて屋久島の地域産業は林業と漁業だったそうです。ところが島の原生林が世界遺産に登録され、屋久杉は前面伐採禁止になりました。それから屋久島は観光と漁業の町に変身したそうです。環境自治体と言っても苦労のあったことが思われます。

21世紀は生活と環境の両立なしには生き残れない、という実感を胸にしつつ帰途につきました。

(生活部会・猪尾英雄)

\*布価格は1冊100円です。

とよっぴーの応援団である「とよっぴー倶楽部」が今秋、発足しました。今年の阪神タイガースの強さは、監督や選手のカもありますが、何と云っても応援団のおかげが大きいです。

年会費は1000円ですが、今年は半年過ぎていまして、来年の3月までの500円です。

みなさんのご入会をお待ちしています。

(花と緑のネットワークとよなか・浅井正)

## 交通部会・今年も“参加型”取組み!

今年もすでに9月を迎え、活動も半ばが過ぎようとしています。

昨年は、環境省の温暖化防止モデル事業として千里中央駅におけるレンタサイクル事業の試行という大きな事業を実施しました。しかし、大阪高速鉄道(モルル)というパートナーを得てできたことであり、別の角度から見ると利用いただいた市民の方たちとの“参加型事業”ということもできます。

交通部会の今年も、《市民—事業者—行政》の協働による“参加型イベント”の開催に取り組んでいます。イベントは、『明日の暮らしを支える地域の交通』(予定)をテーマに、「賢い車の使い方」や「自転車

に関する議論」「交通事業者との意見交換会“明日への夢”」などをとおして、不要不急の自動車利用を自然に減らすための取組み(条件整備)を考え、語り合う場にしたいと考えます。

時期は11月1日の「環境フォーラム」との共催を予定しています。その他、大阪府や企業会員によるパネル展示やアトラクション(体験コーナー、販売コーナー)、一般市民の参加できるコーナーなどを計画(予定)しています。

イベントへの参加はもちろん、できるだけ準備段階から一般の参加を実現したいと考えております。

(交通部会アドバイザー・森岡秀幸)

## 自然部会・今年度の活動計画

部会が結成されて以来の三つの柱（モットー）のもとで活動しています

- I. 自然に親しみ学ぶ—豊中に残っている小さな自然—島熊山、待兼山、刀根山や社寺林等を多くの市民に知って貰いたい。
  - II. 自然を守り育てる—豊中の自然は、人間の手が加えられた里山なので、放置するとツル植物やタケやネザサなどが他の植物を駆逐するので、適当に伐採する必要がある。さらに、環境の変化で乾燥化や水辺の生物の減少、開発の危機に瀕している自然を守らなければならない。
  - III. 自然を造り広げる—学校の敷地内に、水辺の自然を造り出すピオトープをとおして、自然と触れ合う機会の少ない子供たちに自然と接する場を与えたい。
- I. 自然に親しみ学ぶ活動
- 初夏の自然観察会（6月）島熊山の自然に触れる
  - 水生生物観察会（7月）箕面川をおもに自然観察（雨天中止）
  - 鳴く虫観察会（9月）服部緑地
  - 秋の自然観察会（11月）詳細未定
  - 水鳥観察会（1月）猪名川
  - 調査活動（2月）水鳥調査 市内全域
  - 希少植物調査観察（8～9月）
- II. 自然を守り育てる活動
- 豊中の自然を守る日 ①島熊山の竹切り（5月） ②天竺川の清掃（9月） ③猪名川自然林の整備（11月）
  - 春日町の竹林整備（2～3月）ヒメボタルの生息地を守る
- III. 自然を造り広げる活動
- ピオトープづくり 西丘小学校
- IV. いずれにも関連する活動
- 連続学習講座（第13回）（10月） ヒートアイランド現象（仮題）
  - 連続学習講座（第14回）（12月） 詳細未定
  - 連続学習講座（第15回）（2月） 詳細未定
  - 学校剪定枝の堆肥化（現在43校、市立小・中校の73%に及び）
  - その他 環境展、生活展に参加し展示、工作など

（自然部会・山口寿）

## 世界自然遺産 白神山地で学ぶ

6月14日～16日の3日間、自然部会の研修旅行が行われた。行き先は世界自然遺産の地・白神山地である。部会員を中心に「秋の七草調査」協力者も加わった総勢24名で大阪国際空港を出発、大館能代空港到着後、早速天然の秋田杉で有名な七座山に登った。

大人が3～4人手をつないでやっと幹を一周するような見上げるばかりの秋田杉やトチ、ミズナラ等の大木がガスのかかった山中にそびえたつ様子は荘厳で、圧倒された。

2日目は、田苗代湿原～駒ヶ岳と岳岱自然観察教育林を訪れ、白神山地の自然を堪能した。透きとおるようなブナの緑に顔を染めながら、成長したブナ1本で数トンの水を蓄えるほど保水力が大きいこと、足元の数センチのブナの<sup>みしよ</sup>実生が幹の微かな凹凸を数えるとまだ4才でしかなく、一人前のブナになるまでには長い長い時間がかかることなど教えていただいた。また、ブナ以外にも樹木や野草の種類が多く、歩みを進める毎にユキザキ、マイズルソウ、シラネアオイなど可憐な花々が登場し、歓声が上がった。植物班のまとめでは、この3日間で私達が観察した植物は、計330種

にもなっている。このような豊かな植物が、3日目に偶然出会ったエゾノウサギを初め、クマ、カモシカや野鳥、昆虫を育み、生命溢れる山を造り上げているのだと実感した。

今回の旅は、現地「秋田自然を守る友の会」の鎌田孝一さんと斎藤栄作美さんにつきっきりでご案内いただいた。夜の交流会では、30年来この地を守ってこられた苦労話や四季の白神の自然の色・音など感動的なお話も聞かせていただいた。まわり中が大自然の中にあっても安住せず、青秋林道の危険を見抜き反対を貫かれたその姿勢は、今も脈打っていた。<sup>うさぎ</sup>翻って豊中の自然の現況を見ると、その消滅の速さは心に痛い。

私達は果して何を守りえたのだろうか。これからの自然部会で出来ることは何なのか、胸に問いただした夜でもあった。

部会員は、植物、昆虫、野鳥、哺乳動物、キノコ、食、安全の各班に分かれて現地で調査し、その結果を帰阪後「世界自然遺産 白神山地自然観察紀行」（A4判43頁）としてまとめた。

（自然部会 易信子）

## 企画屋本舗・今年度の計画など

今年度も「ちょっといい豊中さがしにいこかウォーク」の第4回目を計画しています。豊中の知られざる？名所を訪ねて、何か新しい発見を感じてもらおうと、「上新田・千里中央あたり」を予定しています。

さる7月6日、下見に桃山台から出発し、新千里南町をとおる、上新田の旧新田小学校や天神社などに寄りながら千里中央まで歩きました。

天神社は、まさしくローカルアジェンダ豊中21の101の提案の一つ「近くの神社に笹づれの音を聞きにいこう」のモデルにふさわしく、静かなところでした。「地域に開かれた憩いの神社にしたい」という神主さんのお話も聞くことができました。さらに、豊中百景の一つの竹林をぬけると、そこは千里中央の高層ビル群で、そのギャップが何とも不思議！「こんなと

ころが豊中にもあるんだー」今回は歩いたあと参加者で、今の豊中の環境やこれからの豊中のことを話し合ってもらう時間もとりたいと思っています。11月22日(土)自分の目で確かめるためふるってご参加ください。

なお、今年度も昨年に引き続き、とよなか市民環境会議アジェンダ21のメンバー間の親睦と交流を目的とした楽しい企画も考えています。

現在、企画屋本舗は20代から80代までの幅広い年代層の10人程のメンバーで活動していますが、これからの楽しい企画運営に、あなたのそのフレッシュな知恵と力をお貸しください。

—新メンバー募集中— 首を長くして待っています。

TEL: 06-6858-2127 事務局まで

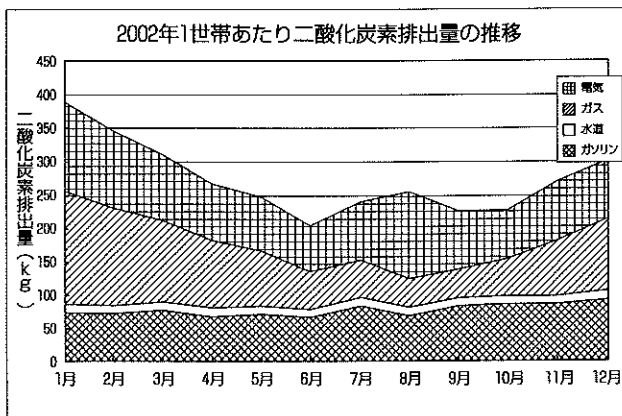
(企画屋本舗・今井文子)

## 生活部会・エコライフカレンダーの集約

### 昨年の環境家計簿モニターの集約ができる

生活部会が取り組んでいるエコライフカレンダーによる環境家計簿をつける運動は、取り組みを始めて6年になります。この間にモニターへの参加者は目標にしていた100人に近づき、ほぼ安定したデータが得られるようになりました。

今回、集約をしながら感じたことは、①相変わらず車の利用による二酸化炭素排出量の比重が大きいこと。②ガソリンの消費量は必ずしも家族人数に比例せず、また毎月の消費パターンは家族人数で見るとバラエティーがあって一定した傾向がつかめないこと。にもかかわらず、全体の集計になると、毎月の消費量はほぼ一定して、グラフの幅に変化が少ないことも分かりました。と言うことは、100人ほどのモニター数ですが、統計的にも資料として十分利用しうるものだという確信



になりました。

もう一つ、今回の集約では事例研究として2年以上モニターを続けてくれた5人の家庭に登場願ひ、環境家計簿をつけ続けた結果を振り返ってもらおうと同時に、感想なども寄せてもらいました。

阪急バスの高齢者向けパスを利用し、ガソリンの消費による二酸化炭素排出量が目に見えて減少し、全体の二酸化炭素排出削減にも大きく寄与することが出来たケースがあり、また家庭によっては冬のガス使用量が多かったり、夏の電気の使用量の少ない家庭もあり、それぞれの家庭によって開きの大きいこともよくわかりました。このような事例研究については初めての試みであり、今後もモニターさんの協力を願って、色々な角度から分析を加えるなら、また新しい発見があるかも知れないことを予感する研究でした。集約の冊子はA4判24ページ。必要な方は事務局に問い合わせください。なお、2002年のモニター参加者は96人、1年間を通してデータを出してくれた人は68人でした。

(奥野享)

地球環境のために暮らしを変えよう

2002年エコライフカレンダーの取り組み

2003年6月



阪中アジェンダ21推進会・生活部会

アジェンダ21推進会の総会にはじまり3つの総会に続き、環境市民の枚本育生さんから1時間余にわたり多くの示唆に富んだ話を聴きました。以下はその要約です

## 二つの神話で混乱され

「持続可能なゆたかなまちづくり」という題名を掲げました。「持続可能な発展」とは何か。それは、エコノミー（経済）・エコロジー（環境）・「社会的公正」の三つの条件を同時に満たす社会をつくることだとも言えます。

二つの神話が、この問題を考えるときに私たちを混乱に陥れます。一つは「経済が成長すれば二酸化炭素の増加は避けられないのではないか」、もう一つは「二酸化炭素を減らすには、生活水準を切り下げなければならないだろう」と。

先に挙げた三つの条件は一見して相互に矛盾するように思えますが、これらの条件を同時に満たすことは、やりようによっては十分に可能です。そのような進んだ事例を、私たちは北欧の国々に見ることができます。デンマークでは原子力発電に依存することなしに、二酸化炭素排出量の削減に成功しています。

## ドイツの環境首都の話

日本でも環境首都コンテストを始めましたが、ドイツで環境首都に選ばれたエッカーンフェルデ市の話をしてしましよう。そこは、人口2万3千人の小都市です。でも、まちの中心はいつも賑わいの絶えることがありません。メインストリートは朝からパンや野菜を買いに来る人、ウィンドーショッピングを楽しむ観光客、立ち話に花を咲かせるまちの人々、そこかしこにあるオープンカフェは談笑する人でいつも賑やかです。

日本で人口2万人余の小都市を思い浮かべたとき、中心街がこれほど賑わっているところがあるでしょうか。日本のまちのメインストリートはどこでも自動車がいっぱいです。このまちでは、中心街のキール通りとそれに接続する数本の道を合わせ延べ約1300メー

トルが全面的に車の乗り入れ禁止です。ドイツの多くの都市で実施している自動車乗り入れ禁止の政策は、環境対策であるのはもちろん、市街地商業活性化施策でもあり、バリアフリーの意味では福祉施策であり、さらに観光振興施策でもあります。

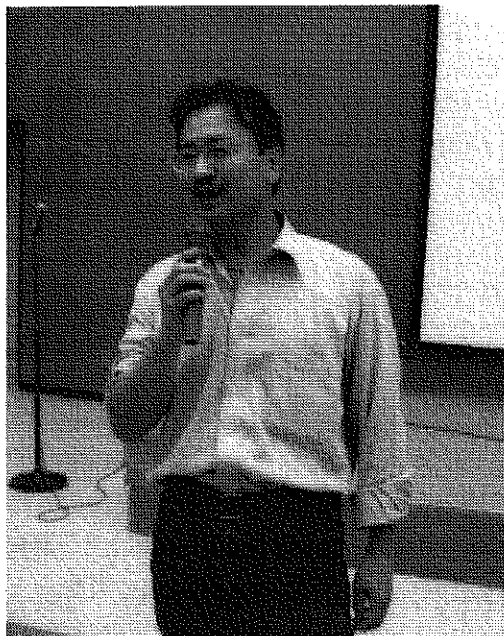
このようなドイツの環境首都を視察したとき考えるのは、私たちがどのようなまちに住みたいか、私たちのまちの将来ビジョンをどのように描くかが必要になります。豊中の皆さんも、ローカルアジェンダを見直す時期に来ているようですが、もう一度どんなまちづくりをイメージするか、10年後、20年後のイメージを持って取り組むことが大切だと思います。

## パートナーシップの力

最後に、環境問題を初めとした公共の仕事に取り組む方法として

のパートナーシップについて触れておきましょう。なぜパートナーシップを行うのか。一言で表せば「相乗効果を期待している」と言うことになるでしょう。たとえば、市民セクター、行政セクター、企業セクターの三者がそれぞれ1の成果を上げるとしましよう。互いの活動に重なりや影響がないとしたら、全体の成果は1+1+1=3となるでしょう。しかし、お互いが影響を与え合い相乗効果を上げるなら1+1+1=10になることもあります。

現実的なことを言うなら、行政のほとんどが緊縮財政になっている時代ですから、人材・資源・資金を有効活用することも必要になっています。そのときに相乗効果を発揮できるかどうかは、お互いが主体的に取り組む体制をいかにつくるかです。それは各主体の特性、能力をうまく生かすということでもあります。京都の環境市民でも色々な市民の取り組みを創っています。そんな中でも活動の目的、達成目標などしっかりと協議しつつ、信頼と緊張ある関係を育て上げようと取り組んでいます。（講演からの要約、奥野享）



## とよなか市民環境会議総会開催

### 平成15年度(2003年度)活動方針決まる!

去る6月27日(金)豊中市立市民会館において、とよなか市民環境会議総会を開催しました。そこで、今年の活動方針が承認されました。当日は、豊中アジェンダ21推進会の総会と記念講演も同時に行われました。(詳しくはトップページをご覧ください。)

それでは、活動方針の特徴的なことからここで紹介したいと思います。

**NPO法人化されるとよなか  
市民環境会議アジェンダ21  
(旧:豊中アジェンダ21推進  
会)とのさらなる連携・強化**

豊中アジェンダ21の推進のため、活動組織であるとよなか市民環境会議アジェンダ21(旧:豊中アジェンダ21推進会)との連携強化が確認されました。これからNPO法人格を取得する同会との連携により、さらに広範囲な市民層へ地球環境保全活動への働きかけを行っていきます。

**豊中アジェンダ21の  
見直し**

「豊中アジェンダ21—地球環境を守るとよなか市民行動計画」は1999年(平成11年)3月にとよなか市民環境会議が策定しました。2003年度(平成15年度)から中間見直しの時期としており、とよなか市民環境会議アジェンダ21(旧:豊中アジェンダ21推進会)に見直し委員会を設置してもらい、検討を進めていきます。

豊中アジェンダ21と共通の理念・目標を持つ豊中市環境基本計画も、同じく2005年度(平成17年度)見直しに向け、今年度から市の環境委員会を中心に見直し作業に着手します。

これらの二つの計画は、豊中市環境基本条例に基づき、豊中市域の環境保全はもとより、地球環境の保全と創造のため、車の両輪のように計画の推進を図るよううたわれています。

それでは、改めて豊中アジェンダ21とはどんな計画だったのでしょうか?

次回は、「豊中アジェンダ21—地球環境を守るとよなか市民行動計画」について、ご紹介します。また、見直しについてご提案・ご質問等があればどんどんお寄せください。

## 豊中まつりの環境プラザ

8月2、3日、中央公民館ホールで開いた豊中まつり協賛の環境プラザは、各部会のパネル展示と竹炭・竹酢の頒布、自然部会と島熊山の雑木林を守る会が行った自然の素材を使った木工教室で賑わいました。2日目の午後にはケーブルテレビの取材もあり、テレビの放映を見て、木工教室に参加したいと

夕方ぎりぎりに駆けつけてきた人もありました。

今年は祭りの大半が豊島公園に集中し公民館前の催しもなくなったので、当初は来場者があるだろうか心配もありましたが、2日間を通し約250人の参加があり、ひと安心の環境プラザでした。



↑自然部会の木工教室の様子  
←ケーブルテレビの取材にパネルの説明をする

## 編集室から

とよなか市民環境会議の産みの親として功績のあった人をひとり挙げるとしたら、誰がどう言おうとこの人だろう。故川崎健次さんが急逝して早2ヵ月になろうとする。昨秋から病床にあったとは言え、やはり早過ぎた。彼を失った損失の大きさを今さらのように噛みしめている。

豊中のローカルアジェンダと環境基本計画との両輪の関係について、独創的な方式を編み出したのも彼の創見によるところだったと思う。一時そのことの議論があちこちであり、「両者は車の両輪である」などと説明してきたのを思い出す。私は彼の説明に逆らい、「市民の車輪の方はがたぴししているが」と付け加え彼を苦笑させたのを思い出す。

それよりも、彼の創見として今ぜひとも大切にしたいと思っているのがもう一つある。とよなか市民環境会議を、市民・事業者・行政の三者のパートナーシップの組織として発足させた点である。その構想は、目指すNPO法人アジェンダ21の組織にもそのまま引き継がれている。人によっては、市民と事業者とはス

タンスが違うのだから、一つの組織としてまとまるには無理があるという声も聞く。もちろん難しい面があるのは承知の上でのこと。だからこそ挑戦に値する。そんな思想的堂々を彼の遺志としてぜひとも成功させたい、そんな気分になっている。(Z)

《広報チーム》Z奥野、T浅井、W岩瀬、K別所、P大村

## 編集スタッフ募集

とよなか市民環境会議アジェンダ21では、3ヵ月ごとにニュースレターを発行しています。

パソコンの得意な方、取材に出掛けて原稿を書いてくださる方、編集を手伝ってくださる方を募集します。どなたでも大歓迎です。

まずは、事務局までお電話くださいね。

電話 06-6858-2127

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>  
Eメール [simineco@city.toyonaka.osaka.jp](mailto:simineco@city.toyonaka.osaka.jp)